

豊中市
多文化共生に関するアンケート
調査結果報告書

概要版

2023年(令和5年)3月
豊中市

目 次

豊中市の外国人市民の状況	1
外国人市民アンケートの主な結果	2
日本人市民アンケートの主な結果	7

※アンケート調査結果の各設問の母数 n (Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。

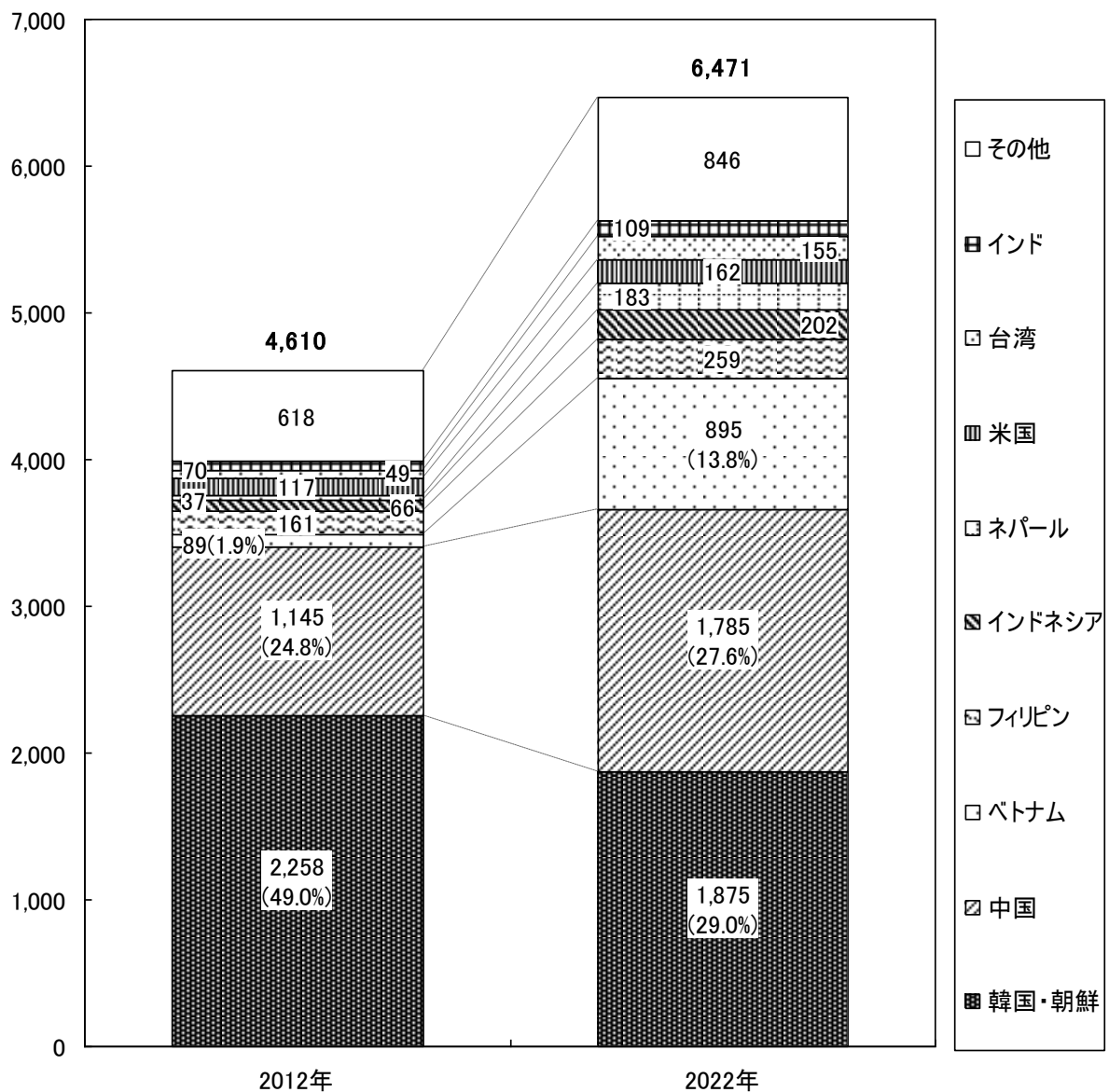
※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

豊中市の外国人市民の状況

- 豊中市における外国人市民の人口は、2022年9月末現在 92か国 6,471人（無国籍を含む）で、10年前の2012年と比べて19か国 1,861人の増加となっています。
- 国籍・地域別にみると、韓国・朝鮮が最も多い1,875人となっていますが、2012年と比べて383人減少し、外国人市民全体の構成比も2012年の49.0%から2022年の29.0%へ大きく低下しています。
- これに次いで、中国 1,785人（2012年から640人の増加）、ベトナム 895人（同806人）、フィリピン 259人（同98人）、インドネシア 202人（同136人）、ネパール 183人（同146人）、米国 162人（同45人）、台湾 155人（同106人）の順となっています。

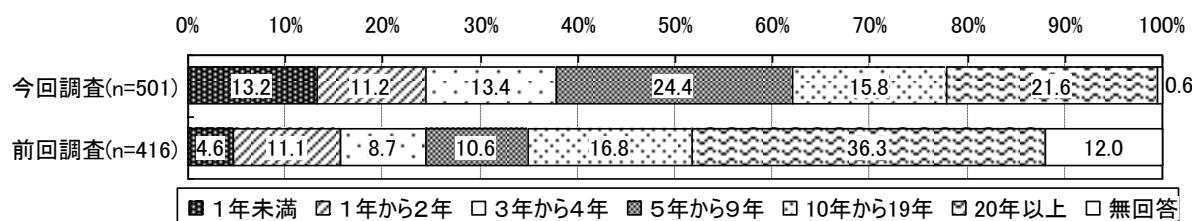
国籍・地域別外国人市民人口の推移



外国人市民アンケートの主な結果

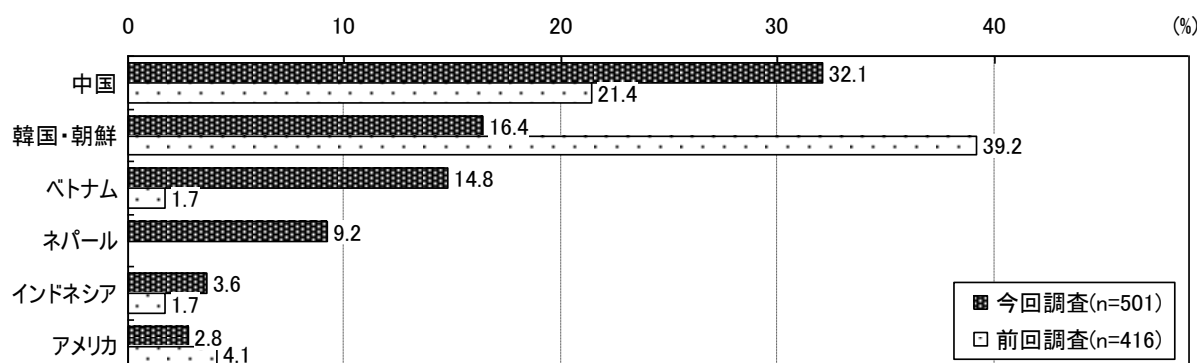
調査目的	豊中市に住む外国人市民の生活を支援するために行政が提供している情報やサービスについての認知度及び活用状況、また生活する上での支援ニーズを把握し、「多文化共生のまちづくり」を推進する上での基礎資料とする。
調査対象	豊中市内に在住する外国人市民のうち、2022年(令和4年)9月21日現在18歳以上の人 2,000人(無作為抽出)
調査方法	○対象者宛てに調査目的とアンケート回答フォームのURL、二次元バーコード等を記載した調査依頼文を郵送(居住地域別に用紙の色を変えて送付)。 ○回答方法は、①インターネット上のアンケート回答フォームによる回答、②とよなか国際交流センターに来てスタッフの補助を受けながら回答、③紙の調査票による回答、のいずれかを選択。 ○アンケート回答フォームは、やさしい日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国・朝鮮語、ベトナム語、ネパール語、スペイン語、インドネシア語の8言語を用意。
調査期間	2022年(令和4年)10月7日～10月31日
回収状況	対象者抽出数 2,000件／転出等33件 依頼文配布数 1,967件／不達数17件／依頼文到達数a 1,950件 有効回答数b 501件 有効回答率(依頼文到達数aに占める有効回答数bの割合) 25.7%

◆日本での在住年数



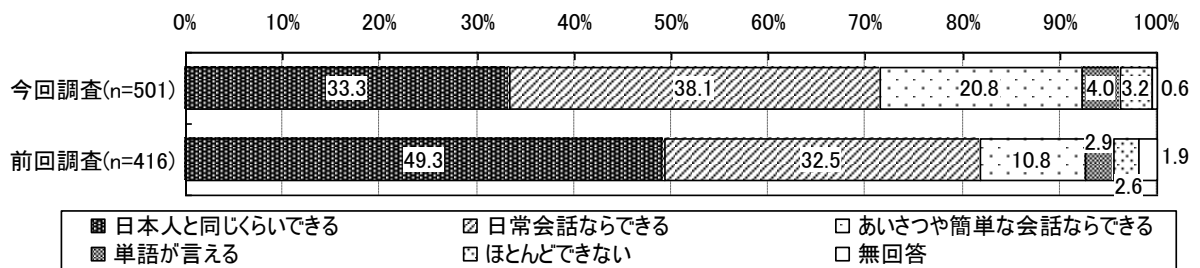
○10年前の前回調査より10年以上という人が減少し、1年未満や5年から9年という人が大きく増加しています。

◆国籍・地域(上位6か国)



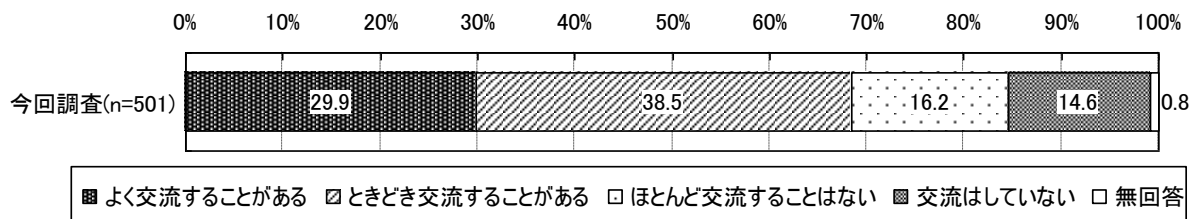
○「中国」、「韓国・朝鮮」、「ベトナム」、「ネパール」の順となっており、前回調査より「韓国・朝鮮」が大きく減少し、「中国」や「ベトナム」などで大きく増加しています。

◆日本語がどのくらい話せるか



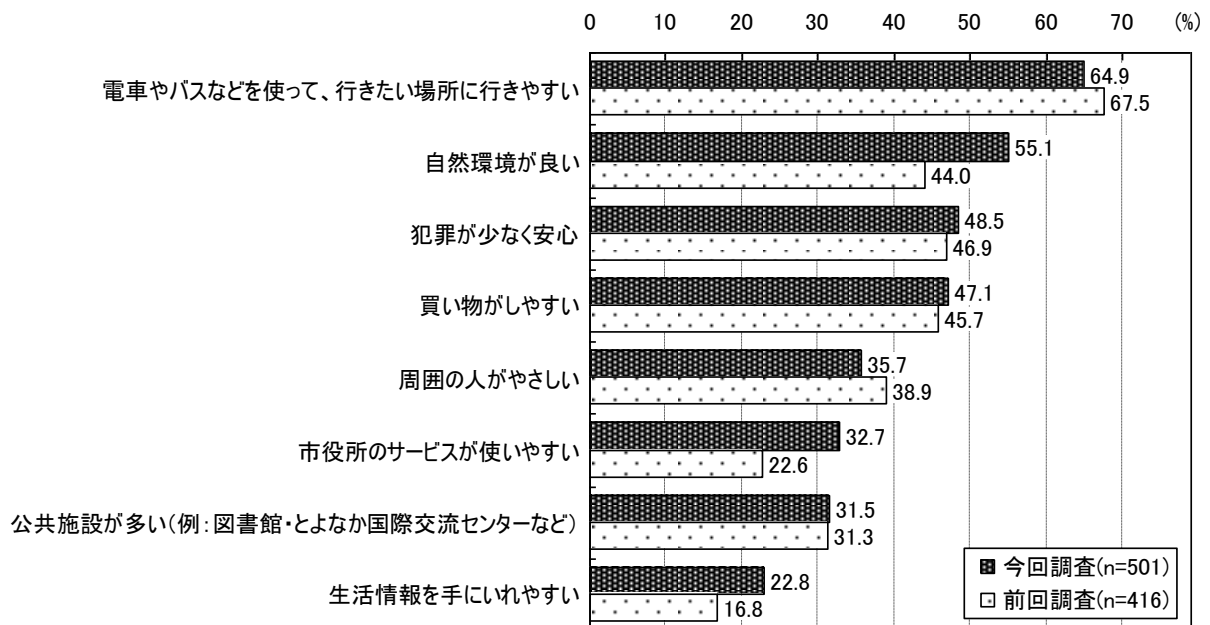
○日本人と同じくらいできる、日常会話ならできるという人が7割を占めていますが、前回調査と比べると日本人と同じくらいできるという人が大きく減少しています。

◆出身国・地域の人との交流の状況



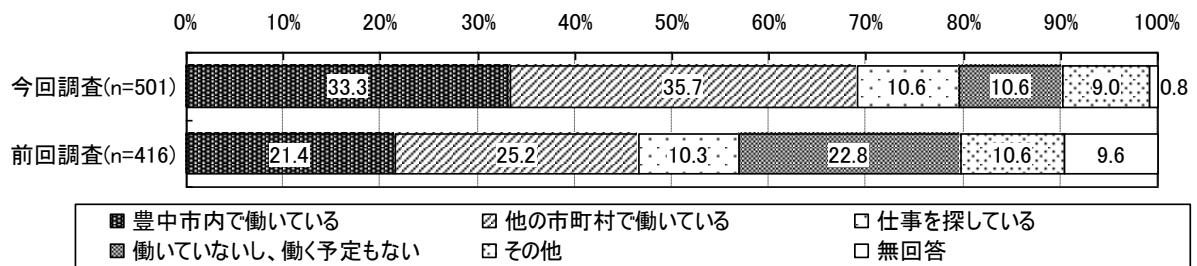
○自分の国や出身地域の人たちが集まったり、SNS上で交流することは68.4%の人があると答えています。

◆豊中市に住んで良いと感じること（上位8項目）



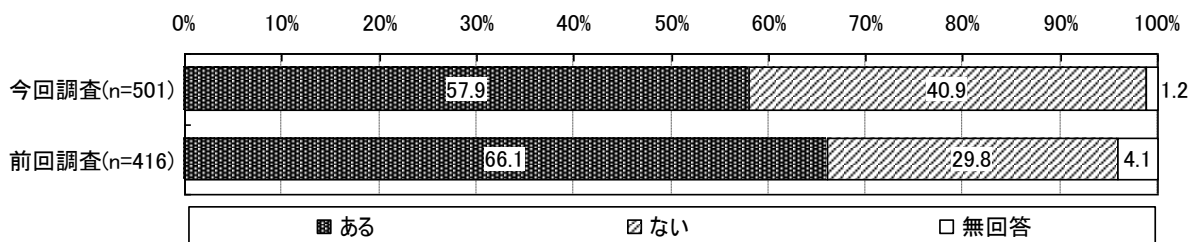
○豊中市に住んで良いと感じることを尋ねたところ、「電車やバスなどを使って、行きたい場所に行きやすい」、「自然環境が良い」、「犯罪が少なく安心」、「買い物がしやすい」、「周囲の人がやさしい」、「市役所のサービスが使いやすい」、「公共施設が多い」などの順で多くみられます。

◆就労状況



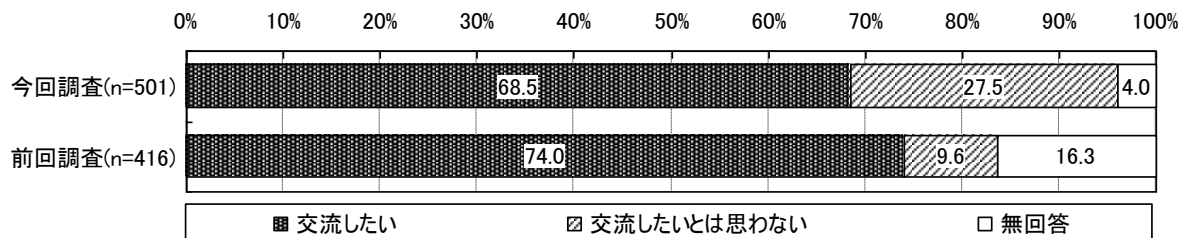
○69.0%の人が就労しており、前回調査より大きく増加しています。

◆地域の人たちとのつきあいの状況



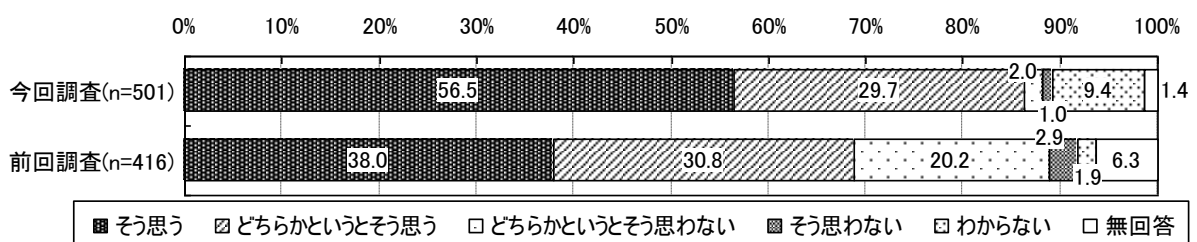
○住んでいるまちの人たちとつきあいがある人は57.9%で、つきあいがあるのは「家の近くに住んでいる人とのあいさつや会話などで」、「仕事や職場で」、「自分や家族が通っている学校の活動やイベントで」という人が多くみられます。

◆地域の人たちとの今後の交流について



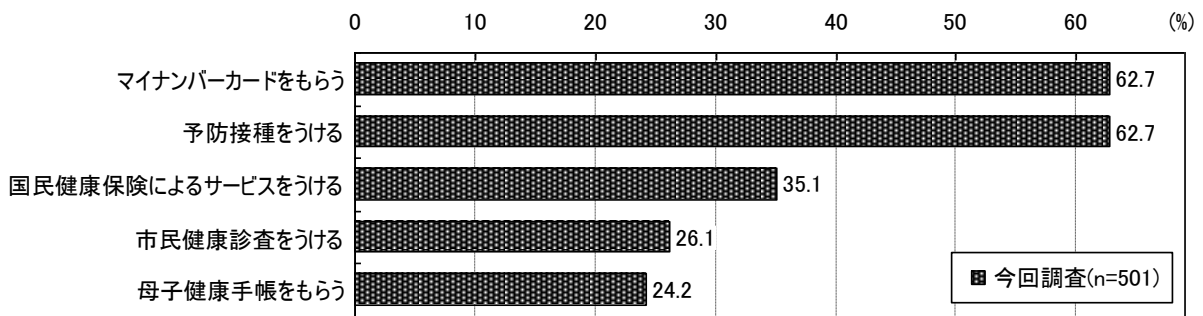
○住んでいるまちの人たちと積極的に交流したいと思う人は68.5%で、「日本の文化や習慣を学びたい」、「友だちになりたい」、「住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい」という人が多くみられます。

◆豊中市は外国人市民にとって住みよいまちだと思うか



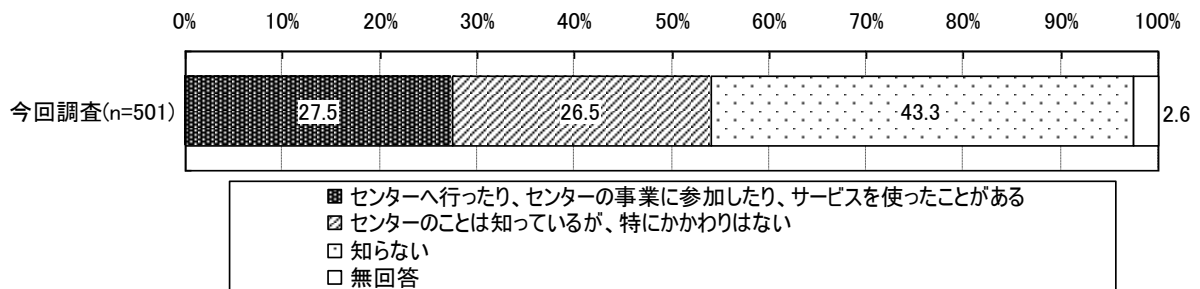
○86.2%の人が豊中市は住みよいまちだと答えています。

◆外国人市民が使えるサービスで使ったことがあるもの（上位5項目）

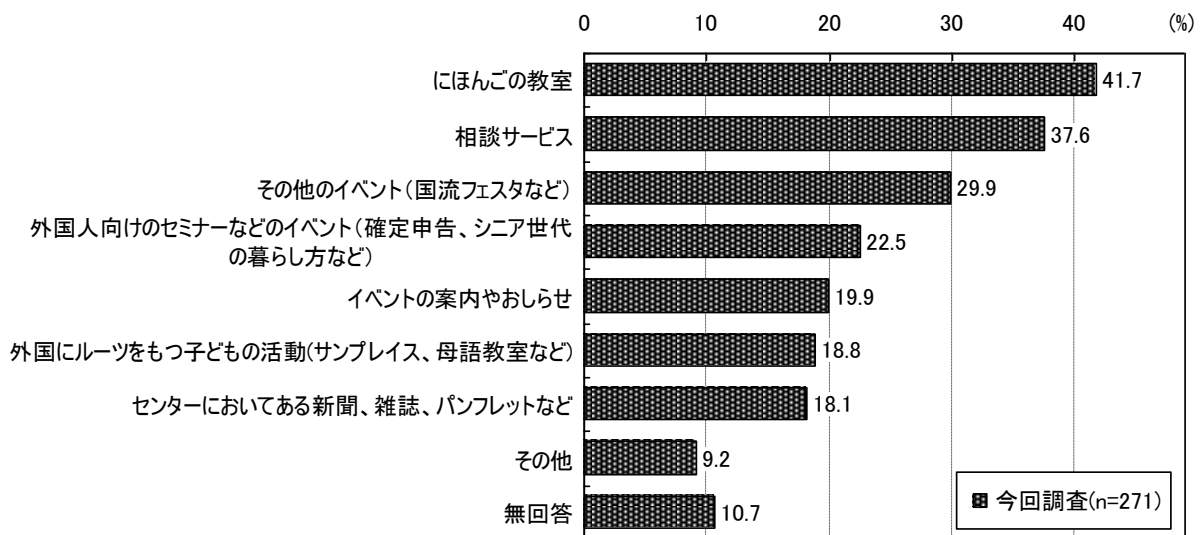


○使ったことがあるものは、「マイナンバーカードをもらう」、「予防接種をうける」、「国民健康保険によるサービスをうける」、「市民健康診査をうける」、「母子健康手帳をもらう」などの順となっています。

◆「とよなか国際交流センター」に行ったり、サービスを使ったこと

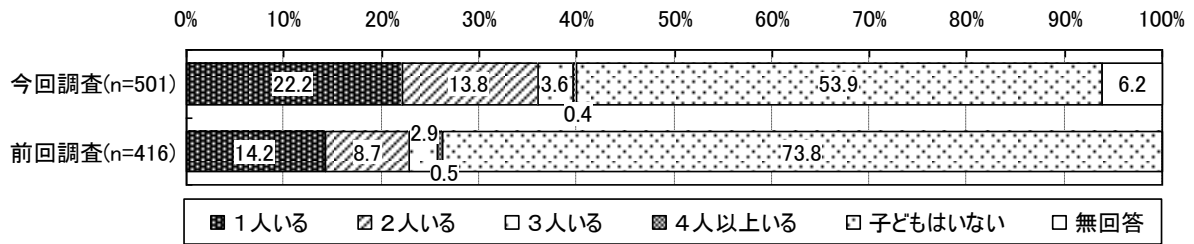


◆「とよなか国際交流センター」のサービスへの参加・利用意向



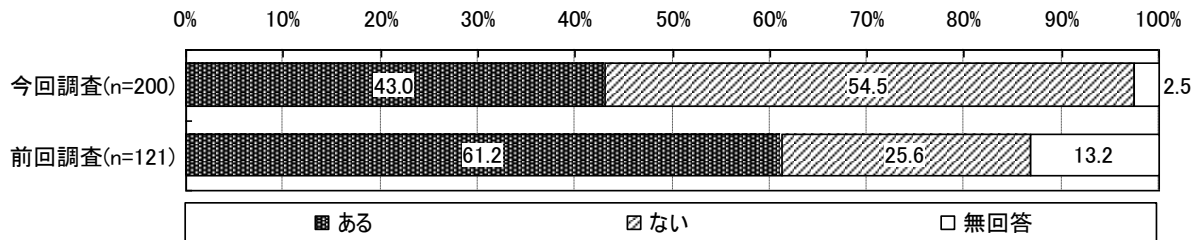
○「とよなか国際交流センター」を知っている人は54.0%、事業に参加したりサービスを使ったことがある人は27.5%となっています。また、参加したり使ったりしたいものは「にほんごの教室」や「相談サービス」などとなっています。

◆同居家族に18歳までの子どもがいるか

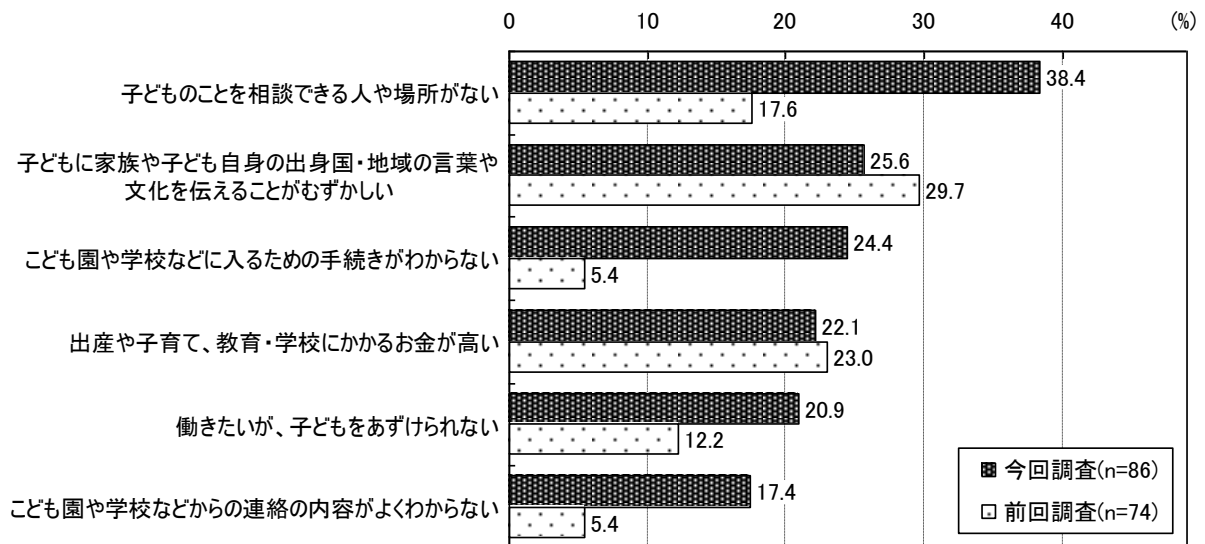


- 18歳までの子どもがいる人は40.0%で、前回調査と比べて増加しています。
- 18歳までの子どもがいる人の17.0%が、子ども自身が学校のことで困ったことがあると答えており、「先生と言葉が通じない」、「日本語があまりできないので、授業がわからない」という人が多くみられます。

◆子育てや教育・学校のことで困ったり心配した経験



◆困ったり心配した内容（上位6項目）

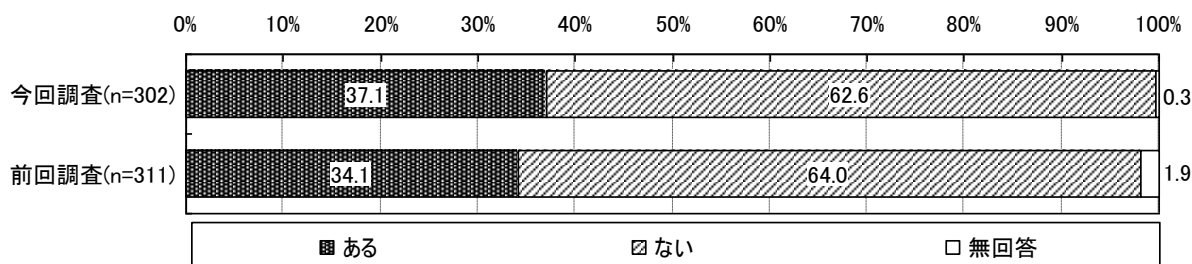


- 子育てや教育・学校のことで、困る（困った）こと、心配する（心配した）ことがある人は43.0%で、「子どものことを相談できる人や場所がない」、「子どもに家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化を伝えることがむずかしい」、「こども園や学校などに入るための手続きがわからない」、「出産や子育て、教育・学校にかかるお金が高い」、「働きたいが、子どもをあずけられない」という人が多くみられます。

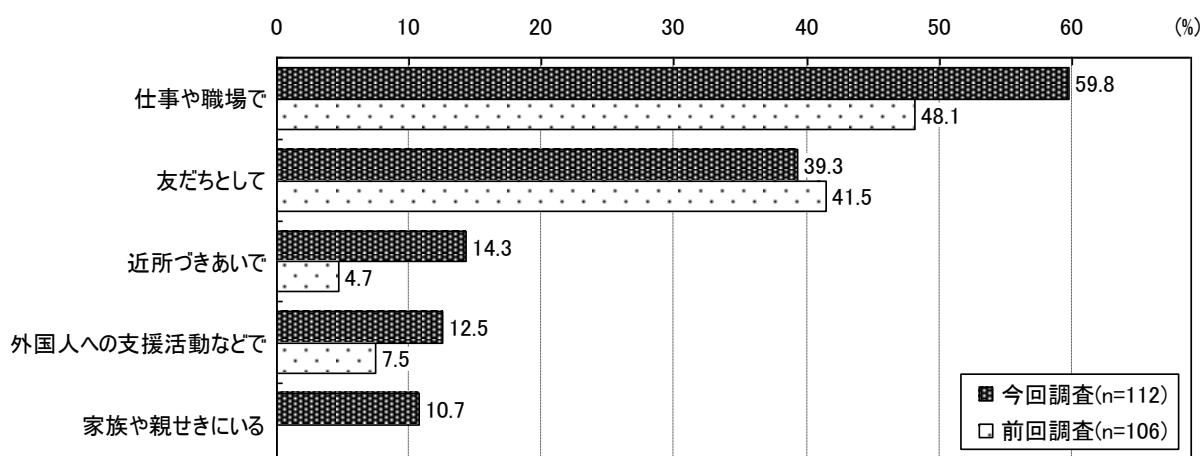
日本人市民アンケートの主な結果

調査目的	豊中市に住む日本人市民の外国人市民とのかかわり、多文化共生についての関心を把握し、「多文化共生のまちづくり」を推進する上での基礎資料とする。
調査対象	豊中市内に在住する日本人市民のうち、2022年(令和4年)9月21日現在18歳以上の人 1,000人(無作為抽出)
調査方法	○対象者宛てに調査目的とアンケート回答フォームのURL、二次元バーコード等を記載した調査依頼文を郵送。 ○回答方法は、①インターネット上のアンケート回答フォームによる回答、②とよなか国際交流センターに来てスタッフの補助を受けながら回答、③紙の調査票による回答、のいずれかを選択。
調査期間	2021年(令和3年)10月7日～10月31日
回収状況	対象者抽出数 1,000件/転出等3件 依頼文配布数 997件/不達数2件/依頼文到達数a 995件 有効回答数b 302件 有効回答率(依頼文到達数aに占める有効回答数bの割合) 30.4%

◆外国人とのつきあいがありますか。(1つ選んでください)

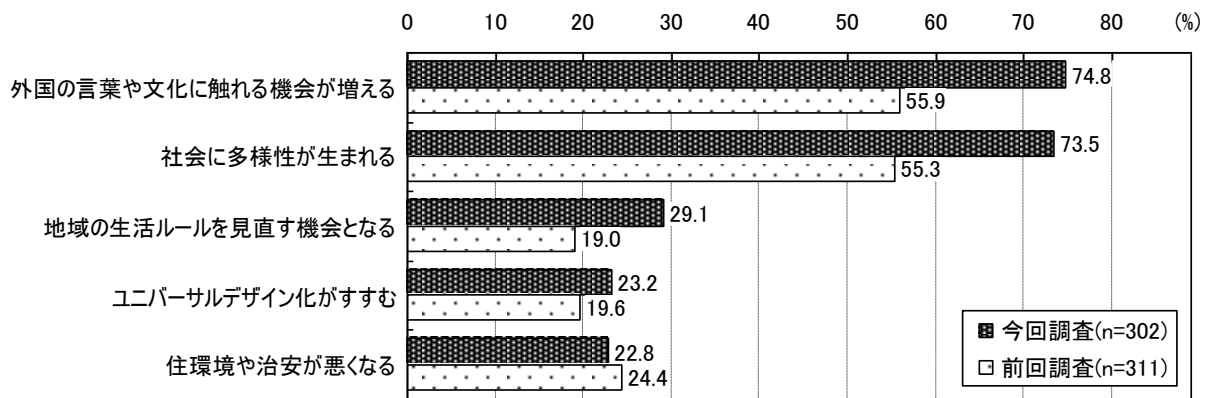


◆つきあいがあるとき(上位5項目)



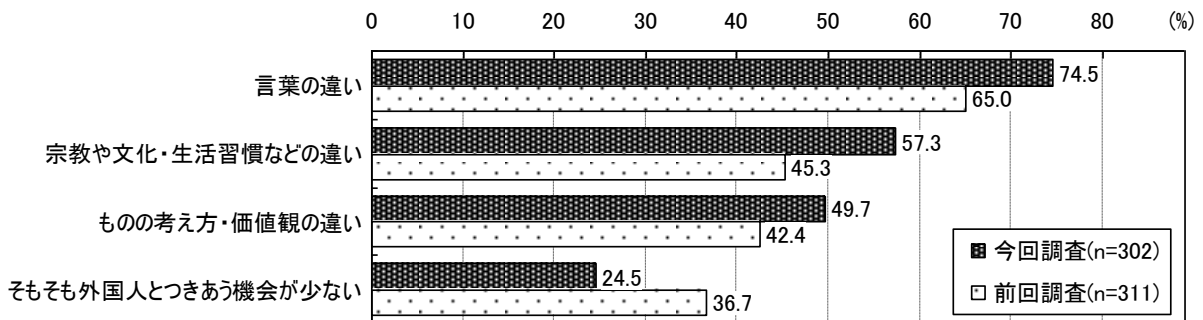
○外国人とのつきあいがある人は37.1%で、「仕事や職場で」、「友だちとして」という人が多くみられます。

◆外国人が増えることによる地域社会への影響（上位5項目）



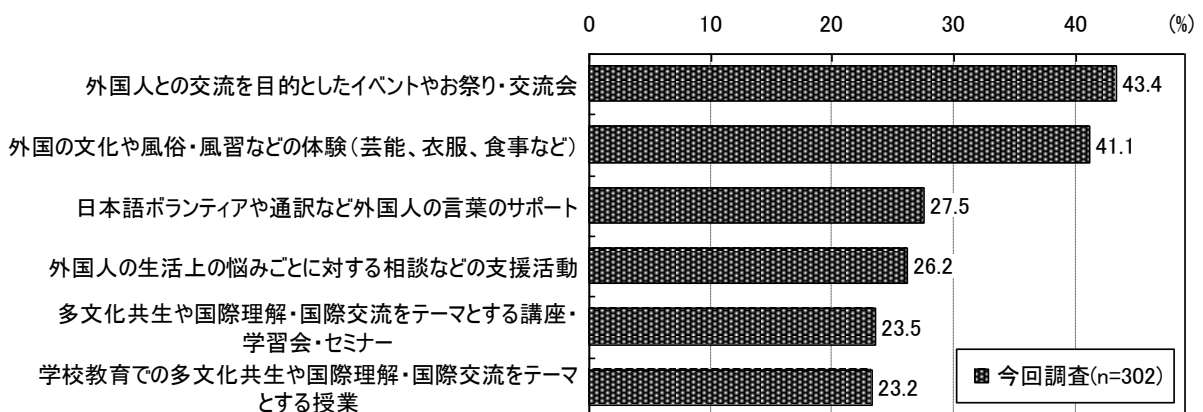
○「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」、「社会に多様性が生まれる」と答える人が70%以上となっています。

◆外国人とつきあうにあたり壁になっていると感じるもの（上位4項目）



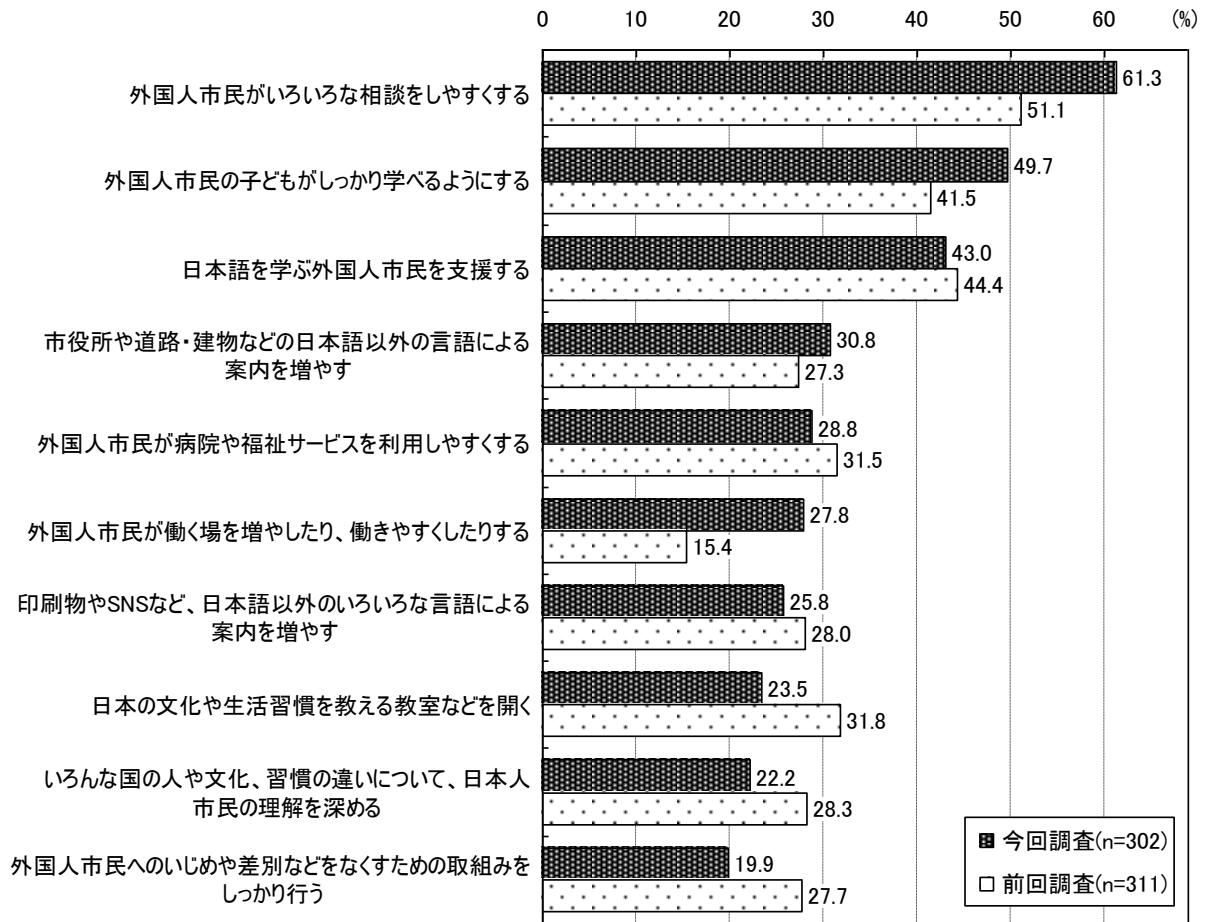
○「言葉の違い」、「宗教や文化・生活習慣などの違い」、「ものの考え方・価値観の違い」と答える人が多くみられます。

◆外国人市民との交流活動や支援活動で関心のあるもの（上位6項目）



○交流活動や支援活動に対して何らかの関心を持つ人は79.1%で、「外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会」や「外国の文化や風俗・風習などの体験（芸能、衣服、食事など）」、「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」などの順となっています。

◆「多文化共生のまちづくり」に向けて力を入れたらよいと思う取組み
(施策・事業)(上位10項目)



○外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動に対して何らかの関心を持つ人は79.1%で、「外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会」や「外国の文化や風俗・風習などの体験」、「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」などの順となっています。

豊中市多文化共生に関するアンケート調査結果報告書 概要版

2023年(令和5年) 3月

<編集・発行>

豊中市 人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号

電話：06-6858-2654／ファックス：06-6846-6003

E-mail：jkokusai@city.toyonaka.osaka.jp

